

1. CSTIによる5年目評価について

○ムーンショット（以下MSという）型研究開発制度では、運用・評価指針（※）において、CSTIが研究開始時点から5年目にMS目標の継続・終了を決定することが規定されている。

○目標8・9は、令和9年3月末に開始から5年が経過するため、CSTI 5年目評価実施要領（参考）に基づき、MS目標に対する進捗状況及び達成の見通しを評価し、研究開発の継続・終了を決定する必要がある。

※運用・評価指針（抜粋）

4. 研究開発の実施方法

【実施期間】

○CSTIは、研究開始時点から5年目にMS目標に対する進捗状況、今後のMS目標の達成の見通しを評価し、MS目標の達成に向けた研究開発（プログラム）の継続・終了を決定する。

2. 5年目評価の進め方（想定スケジュール等）

令和8年2～3月

PD・アドバイザー(外部)によるプロジェクト評価＜JST＞

令和8年3月

戦略推進会議

⇒研究推進法人（JST）からのプログラムの進捗等の報告に対して、助言を実施

令和8年4月

プログラム評価(主に技術専門的観点の外部評価※)＜JST＞

令和8年6月

プログラム評価(ガバニング委員会(外部)による総合評価※)＜JST＞

⇒ JSTにおいて、評価が取りまとめ次第、評価結果を公表 ※上記2つが研究推進法人の5年目の外部評価

令和8年7月14日

戦略推進会議(懇談会)

⇒PD・JSTからの外部評価の結果等の報告に対して、助言を実施

令和8年7月23日

CSTI有識者議員懇談会

⇒CSTI5年目評価に向けて、PD・JSTからの目標の進捗状況・達成の見通しの報告に対して、質疑・意見交換等を実施

令和8年9～10月頃

CSTI有識者議員懇談会

⇒PD・JSTは質問や意見へ回答、5年目評価案についての意見交換等を実施

令和8年10～12月末頃

CSTI本会議 5年目評価、継続・終了決定

■ 評価方法

- CSTI有識者議員懇談会を2回開催し、CSTI5年目評価を実施。
- 1回目の会議において、プログラムディレクター（PD）及び研究推進法人は、目標の進捗状況及び達成の見通しについて、以下の評価の視点に従って報告し、意見交換等を実施。
- 2回目の会議において、PD及び研究推進法人は質問や意見へ回答する。内閣府は研究開発の継続・終了を含む評価結果案をとりまとめる。
- CSTI本会議において、評価対象となる目標の継続・終了を決定。

■ 評価の視点

○MS目標に対する進捗状況

ターゲットに向けた進捗状況を個々のプロジェクトの進捗ではなく、MS目標を達成するための進捗及び課題の把握と理解の状況について評価。

○今後のMS目標の達成の見通し

後半5年を含め目標達成に向けたシナリオを点検した上で課題等の整理状況とそれらの対応方針について評価。

(報告時の留意点)

- 進捗状況や達成の見通しを報告する上で必要なターゲットの明確化・詳細化
- ターゲットと各プロジェクトとの関係整理、課題や不足する技術等に対応するためのターゲットやポートフォリオの見直しの方向性
- プログラム終了後の社会実装に向けた取組の方向性
- 国際的ベンチマーク等による国内外問わずトップレベルの研究開発としての位置づけ整理
- 世界中からの英知の結集や失敗を恐れず挑戦的な研究などMS制度の基本的な考え方における特徴を踏まえた取組についての状況や課題
- PDとしてのマネジメント方針 など